地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項に基づく

# 教育委員会の点検・評価

**（平成29年度対象）**

**平成30年8月**

**富津市教育委員会**

# 目　　　　　次

Ⅰ.はじめに

１．本市の点検・評価の概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 1

２．教育委員の活動状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 2

Ⅱ.点検・評価

１．学校教育の充実‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5

（１）教育総務課の取り組み ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7

（２）学校教育課の取り組み ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9

（３）教育センターの取り組み ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 12

外部評価者による評価‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 14

２．生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、
文化財の保護と活用‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 16

（４）生涯学習課の取り組み‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 17

（５）公民館等の取り組み‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 19

ア．中央公民館 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 19

イ．富津公民館・埋立記念館‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 21

ウ．市民会館・峰上地区公民館 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 23

外部評価者による評価 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 25

３．スポーツ・レクリエーションの振興‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 26

（６）生涯学習課（スポーツ振興係）の取り組み‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 27

外部評価者による評価 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 29

# Ⅰ．はじめに

## １．本市の点検・評価の概要

### （1） 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条で、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表するよう求められています。また、点検・評価にあたっては、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

富津市教育委員会では、これに基づき、平成 20 年度の事業から毎年、点検・評価を実施してきました。

今般、平成 29 年度の点検・評価が終了しましたので報告します。市民の皆様に、教育委員会が行っている日常の業務や課題を知っていただき、一層のご支援を賜りたいと考えています。

### （2）報告書の構成

平成27年度が目標年度であった「富津市第３次基本計画」及び「生涯学習推進計画」に代わり、「富津市教育施策」の施策指標とそれに対する到達点を３分野に分けて明示しながら、取り組みの実際と自己評価、及び学識経験者２名の評価と意見を記載しました。

また、学識経験者の評価と意見は、分野ごとにまとめていただきました。

評価Ａ：事業の効果が現れている。
　　Ｂ：事業の効果が概ね現れている（一部に問題がある)。
　　Ｃ：事業の効果があまり現れていない（多くの問題がある)。

富津市教育委員会　　　　　　　　　　平成３０年３月３１日現在

| 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|
| 教　育　長 | 岡　根　　茂 |
| 教育長職務代理者 | 宮　田　　賢 |
| 委　　員 | 榎　本　純　子 |
| 委　　員 | 小　坂　洋　子 |
| 委　　員 | 坂　部　充　洋 |

## ２．教育委員の活動状況

（1）定例会議等･･････毎月開催、必要に応じて臨時に開催

| | |
|---|---|
| ４月２７日 | ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について<br>・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて<br>・教科用図書君津採択地区協議会委員の選出について　等 |
| ５月２５日 | ・富津市一般会計予算教育費６月補正予算案について　等 |
| ６月２９日 | ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について<br>・富津市小・中学校再配置計画の策定について　等 |
| ７月２７日 | ・平成 30 年度使用教科用図書の採択について<br>・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について<br>・報告事項 |
| ８月３１日 | ・富津市一般会計予算教育費９月補正予算案について　等 |
| ９月２８日 | ・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について　等 |
| １０月２６日 | ・報告事項　等 |
| １１月３０日 | ・報告事項　等<br>※臨時代理の報告<br>・富津市一般会計予算教育費 12 月補正予算案について<br>・富津市体育施設の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定について<br>その他の報告<br>・学校給食施設整備に向けた提言書について |
| １２月２１日 | ・富津市教育委員会被表彰者の決定について<br>・富津市いじめ防止基本方針の改定について　等 |
| １月２５日 | ・報告事項　等 |
| ２月１５日 | ・富津市学校医等の委嘱について<br>・富津市一般会計予算教育費３月補正予算案について<br>・平成 30 年度富津市一般会計予算教育費当初予算案について<br>・退職教職員に対する教育功労者の表彰について　等 |
| ３月２９日 | ・富津市退職教職員感謝状贈呈式 |
| ３月２９日 | ・富津市文化財審議会委員の委嘱について<br>・富津市小・中学校再配置計画の改定について<br>・富津市学校施設整備基本計画を定めることについて<br>・富津市文化財第９次指定について<br>・平成 30 年度富津市学校教育の指針を定めることについて　等 |

（2）教育委員協議会‥‥‥事務局とのフリートーキング等

４月２７日　・富津市小・中学校再配置計画（案）進捗状況について
　　　　　　・富津市学校施設整備基本計画（案）について
　　　　　　・富津市立小・中学校情報セキュリティポリシーの策定について
５月２５日　・教育委員会の点検・評価（平成 28 年度対象）について
６月２９日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小中学生夏季自習室の開放について
　　　　　　・放課後学習教室パイロット校実施計画について
７月２７日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
８月３１日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
　　　　　　・(仮称）ふるさと育英資金について
　　　　　　・富津市学校施設整備基本計画（案）について
９月２８日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
１０月２６日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
　　　　　　・富津市学校給食施設整備の指針進捗状況について
１１月３０日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
　　　　　　・富津市学校施設整備基本計画（案）について
　　　　　　・平成 30 年度富津市一般会計当初予算編成の基本方針について　等
１２月２１日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
　　　　　　・富津市小中学生冬季自習室の開放について
１月２５日　・天羽中学校校舎改築事業進捗状況について
２月１５日　・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について
　　　　　　・富津市学校施設整備基本計画（案）について
　　　　　　・旧市役所第二庁舎跡地利用について
３月２９日　・天羽中学校校舎改築工事基本設計報告書概要版について
　　　　　　・富津市立小・中学校情報セキュリティポリシーについて
　　　　　　・富津市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルについて　等

（3）総合教育会議‥‥‥市長、教育委員会により構成され、大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策等協議・調整を行う。

６月２９日　・富津市小・中学校再配置計画の策定について

※１月２５日（市長と教育委員会との協議会）

・富津市学校給食施設整備について

・富津市小・中学校再配置計画進捗状況について

| 富津市教育施策に係る大綱<br>平成２８年１２月２２日<br>富津市長　高　橋　恭　市<br>富津市及び富津市教育委員会は、「 豊かな心を育む教育と文化の香るまち」を目指し、それぞれの施策を推進します。 |
|---|

**（4）教育長及び教育委員の研修等**

５月１５日　君津地方教育委員会連絡協議会総会

５月２３日　千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演会

講　演　「次期学習指導要領へ向けて」

１１月１３日　千葉県市町村教育委員会連絡協議会第１回教育長・教育委員研修会

① 全体会（パネルディスカッション）

テーマ　「新しい教育課程の実施・取組における現状と課題」

～教育委員会の果たす役割を考える～

② 分科会　「新学習指導要領に向けて」

「地域とともにある学校づくりについて」

「異校種間の連携教育について」

２月６日　千葉県市町村教育委員会連絡協議会第２回教育長・教育委員研修会

講　演　「更生保護」

～立ち直りを支えるしくみ～

**（5）学校訪問**

６月２６日　金谷小学校

７月３日　飯野小学校

７月４日　吉野小学校

経営概要説明・授業参観　等

**（6）その他**

入学式・卒業式、小・中学校音楽のつどい、成人式、並びに関係団体・機関の会議等に多数参加した。

# Ⅱ．点検・評価

## １．学校教育の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

| 指　標　名 | 平成２７年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
|---|---|---|---|
| **学力向上推進事業**<br>きめ細かな指導のために配置された指導員数 | 外国人指導助手（ALT）３人<br>自立支援指導員　　４人<br>学校適応指導相談員　２人<br>指導補助教員　　　５人<br>英語指導員　　　　３人<br>特別支援教育指導員５人<br>読書指導員　　　　０人 | ３人<br>４人<br>２人<br>７人<br>６人<br>８人<br>３人 | ３人<br>４人<br>２人<br>６人<br>３人<br>６人<br>０人 |
| 保護者アンケートによる「子どもが確かな学力を身につけるための取組」に対する保護者の肯定的な評価の割合 | 平成２８年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
| | ７９．９％ | ９０％ | ８３％ |
| **教職員研修事業**<br>自分の地域を肯定的にとらえられる子どもの割合 | 平成２８年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
| | ８４.０％ | ９０.０％ | ８６．１％ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教職員が地域に関する理解を深め、教育の質の向上を図ることにより自分の地域の良さが回答できる子どもの割合 | 未実施 | ７０．０％ | ９３．７％ |
| **体力向上プログラムを活用した教科体育の充実**<br>運動能力証交付率（県平均との比較） | 平成２７年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
| | １３９．０％ | １４８．０％ | １５０．１％ |
| 体力・運動能力調査で県平均を上回った調査項目の割合 | ７２．９％ | ８０．０％ | ７０．８％ |

| （1）教育総務課の取り組み | 教育委員会の自己評価　　　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

・学校教育振興基金費　　　　　　　　積立金（30,000,000円）
・学校施設整備事業（56,849,040円）　　工事請負費（56,849,040円）
・学校教育振興費（16,736,124円）　　　理科教育振興備品（1,998,000円）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　教材備品（4,144,871円）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　図書備品（3,110,352円）
・天羽中学校校舎改築事業（9,537,406円）　等

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・「富津市公共施設等総合管理計画」に基づき売却する方向で、旧環南小学校借地を買収した。今後も維持管理をしながら、跡地の利活用を検討する。

・「富津市小・中学校再配置計画」策定にあたり総合教育会議を開催し、教育委員会の「教育環境を整備したい。」、市長の「市民の皆様の意向に十分配慮しながら再配置を進めてほしい。」との思いに協議を重ね、連携・協力し、６月定例会にて策定した。

・学校施設の整備は、天羽中学校校舎改築に伴い、改築工事中、生徒が湊小学校へ一時移転するためのトイレ改修工事、職員室等改修工事、駐輪場整備工事、繰越明許費分の湊小学校浄化槽改修工事及び佐貫中学校屋上スペース内給水管改修工事等を実施した。今後の課題として、３月に策定した「富津市学校施設整備基本計画」に基づき、施設の老朽化対策及び安全性を最優先とした計画的な施設整備を実施していく。

・天羽中学校校舎改築事業は、学校、ＰＴＡ、地域代表等で構成する基本設計検討委員会を８回開催し、３つの基本方針（多機能で変化に対応し得る弾力的な施設、健康的かつ安全で豊かな施設、地域の生涯学習やまちづくりの核としての施設）に基づき基本設計を進め、基本的な教室タイプ、配置計画、平面計画（アトリウムを中心にフロアでゾーンを分けた１棟吹き抜け型）、構造（鉄筋コンクリート造で内装には木を多く使用し温かみのある造り）を決定した。また、湊小学校へ一時移転のため備品等の移転、地質調査業務委託等を実施した。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

学校施設については、富津市教育施策にあるように安全･安心な教育環境づくりに努める。そのため、「富津市小・中学校再配置計画」との整合を図りながら、「富津市学校施設整備基本計画」に基づき、施設の老朽化対策及び安全性を最優先とした計画的な施設整備を実施していく。また、統合後の跡地利用については借地及び未登記用地が存置しており、利活用するには購入等検討していく必要がある。今後、市役所内部の庁内検討委員会等で跡地利用を検討し民間への賃貸又は譲渡により、利活用していく。

## ◎教育部全体での取り組み（教育かわら版の発行）

教育委員会が日頃行っている業務等について、市民に理解して頂くために教育かわら版を20年度から発行しており、今年度で通刊42号を迎え、計4号を区長回覧にて全戸配布し、併せて富津市ホームページに掲載した。7月発行の39号は、教育委員の紹介、児童の防犯訓練、スポーツ行事及び移動図書館等のおススメ本の紹介等、10月発行の40号は、「富津市小・中学校再配置計画」の策定、スポーツ少年団交流、指定された学校以外への就学申請、「ふっつ学びの門」ミュージカル「KINJIRO！本当は面白い二宮金次郎の公演案内等、12月発行の41号は、冬におすすめの絵本の紹介、元旦のイベント紹介、食と子育て～その11等、２月発行の42号は、食と子育て～その12、就学援助制度・育英資金制度の紹介等、多種多様な内容の紹介に努めている。

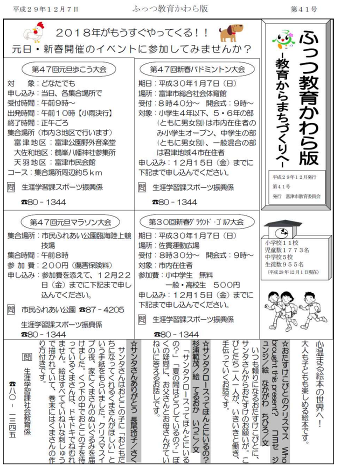
財政収支改善策による経常経費削減のための検討は必要だが、今後も引き続き内容の充実に努め、発行は続けていきたい。

ふっつ教育かわら版
～教育からまちづくりへ～

39号（H29年7月発行）

ふっつ教育かわら版
～教育からまちづくりへ～
スポーツ少年団が友好都市を訪問しました！

40号（H29年10月発行）


ふっつ教育かわら版
～教育からまちづくりへ～
2018年がもうすぐやってくる！！
元日・新春開催のイベントに参加してみませんか？

41号（H29年12月発行）

ふっつ教育かわら版
～教育からまちづくりへ～

42号（H30年2月発行）

| （2）学校教育課の取り組み | 教育委員会の自己評価　　　　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額
- 私立幼稚園就園奨励事業（44,699,900 円）
- 要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業（19,774,361 円）
- 特別支援教育児童・生徒就学援助事業（2,121,529 円）
- 特別支援教育指導員（10,136,644 円）
- 学校給食管理運営事業（137,089,212 円）
- 給食施設整備事業（3,024,000 円）
- 給食材料費（166,731,660 円）　等

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・私立幼稚園就園奨励事業

市内に住所を有する補助金該当保護者の子 288 人（前年度比-16 人）が通う、市内外の私立幼稚園９園の設置者に補助金を交付し、幼児教育の振興を図った。

平成 28 年度から補助額を国の限度額と同額とし、平成 29 年度から私立幼稚園就園奨励補助対象の園児に兄又は姉が２人以上いる世帯の多子計算に係る年齢制限を撤廃し保護者の経済的負担の軽減を図った。

・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業

準要保護児童・生徒として 213 人（前年度比+15 人）を認定し、学用品費・給食費・児童への通学費補助・医療費等の援助を行った。

国の基準額の半額であった学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学用品費等を平成 28 年度から同額とした。

さらに、中学校入学後に支給していた新入学用品費について、平成 29 年度から中学校入学前に支給し保護者の経済的負担の軽減を図った。

・特別支援教育児童・生徒就学援助事業

特別支援学級在籍の児童・生徒 52 人（前年度比+5 人）を認定し学用品費・給食費等の援助を行った。

・特別支援教育指導員

通常学級で過ごす特別支援を必要とする児童・生徒の支援のため、６人（前年度比+1 人）の指導員を非常勤で雇用し延べ６校に派遣した。配置の効果は非常に大きく、学校からも増員に向けた切実な要望が寄せられている。

・その他

児童・生徒の健全な育成と各種事故防止を図るため、学校と警察並びに教育委員会が学校警察連絡委員会を組織している。29 年度も連携を密にし、互いに協力して指導の万全を期した。また、27 年度より通学路の安全確保に向けた取り組みを関係機関（富津警察、国・県道路関係者及び市役所関係部署、PTA 代表、等）が連携して推進し、通学時における児童生徒の交通事故防止を図るため、「富津市通学路安全対策協議会」を立ち上げた。各学校から報告のあった通学路の危険箇所を、関係機関で合同点検を行い、危険箇所の改善等が行

われた。
・学校給食管理運営事業
11 月 15 日に学校給食運営委員会から、より安全で安心な給食を提供するため「すべての調理場を統合し、新規に共同調理場を建設する。」という「学校給食施設整備に向けた提言書」が出され、市長と教育委員会との協議を行った。また、共同調理場２箇所（大貫、天羽）及び単独校調理場（青堀小学校）の調理等業務及び受配校への配送等業務を民間会社に委託し実施した。
・給食施設整備事業
天羽共同調理場の機能維持のため、重油地下タンクの漏洩防止（内面ライニング塗装）工事を実施した。
・給食材料費
２共同調理場及び１単独校調理場で年間 194 日以上給食を実施して、児童・生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。
また、給食で提供する主な食材の放射性物質検査を行い、検査した延べ 66 品目全てで放射線は「不検出」だった。
・小・中学校再配置計画の推進
「富津市小・中学校再配置計画（案）」の保護者説明会・地区説明会（全５回、延べ 132 人）を実施し理解の促進に努めた。説明会等での意見を総合的に判断した結果、再配置計画（案）への理解に深まりがみられたと判断し、「富津市小・中学校再配置計画」を６月に策定した。策定時に継続協議となっていた金谷小学校において、PTA を中心に保護者による協議が行われ、天羽地区３小学校の再配置計画に加えることの要望書が提出されたことを受け、金谷小学校を加えた「富津市小・中学校再配置計画」を３月に改定した。

③　今後の取り組みの方向性（改善策等）
・私立幼稚園就園奨励、要保護及び準要保護児童・生徒就学援助、特別支援教育児童・生徒就学援助事業
３事業とも市の財政負担が高まる傾向にあり、幼児教育・学校教育の振興のため、予算の確保が求められているところであるが、小学校入学後に支給していた就学援助入学準備金について、平成 30 年度から小学校入学前に支給し保護者の経済的負担の軽減を図っていきたい。今後も予算の確保に努めていきたい。
・特別支援教育指導員
今後も各学校のニーズに応じた増員に向け、予算の確保に努め、さらなる充実を図っていきたい。
・学校給食管理運営事業
「学校給食施設整備に向けた提言書」を受け、老朽化した３調理場を１箇所に統合し、学校給食衛生管理基準に定められた衛生機能の高い新共同調理場の建設に向け、努めていきたい。

・給食施設整備事業

　各既存施設が老朽化しているため、施設及び厨房機器等の維持補修のための工事、修繕等を実施していく。

・給食材料費

　安全・安心で安定した給食の実施に向け、調理従事者研修の充実、食材の安全確保に努める。また、給食に使用する食材の地産地消を推進し、各調理場での取り組みを公表する。

　給食費未納者に対しては、今後も例規に基づいた対応を実施する。

・小・中学校再配置計画の推進

　当該学校に設置している学校再配置個別計画検討協議会において、再配置に関する課題と対応策等の協議を行っていく。

| （３）教育センターの取り組み | 教育委員会の自己評価　　　　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

・学力向上推進事業（11,263,817 円）

・教職員研修推進事業（127,175 円）

・外国語指導助手配置事業　(11,016,000 円)　　等

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・学力向上推進事業

少人数指導の推進と放課後学習教室試行のため、指導補助教員６人を、小学校２校、中学校３校に配置し、授業中の個別指導や適応指導教室での学習支援を行った。個に応じた指導への各学校からのニーズは高く、今後さらに増員を目指したい。また、湊小学校には、放課後学習教室パイロット校として指導補助教員２名を配置し、３年生と４年生全員に週１～２回の放課後学習教室を実施した。事前事後調査によると子どもたちの学習意欲や計算力に向上がみられた。

学力向上推進委員会を組織し、本市の学力の課題を分析した。その結果、引き続き「書いて、考える」学習に重点を置いて児童生徒の取り組みの意識の変化を見ることとした。また、教務主任と連携し、授業中に「思考して書く」時間をとるように働きかけた。

生徒指導・教育相談体制として、自立支援指導員４人を小・中７校に、適応指導相談員２人を適応指導教室に配置した。県から派遣されたスクールカウンセラーは、中学校５校小学校３校に配置し、延べ 1,569 件（昨年度 1,800 件・231 件の減）の相談活動を行った。長期欠席者が減少傾向にあるので、継続して原因に応じた対応に取り組んでいきたい。心療内科の専門医による相談は、13 件（昨年度５件)、教育センターへの電話及び来所による相談は 14 件（昨年度 43 件）であった。

情報教育推進のため、小学校のコンピュータ室にタブレットパソコンを導入し、活用研修も行った。また、情報モラルとして、ＳＮＳ等でのトラブルの未然防止に関する研修も行い、児童生徒が活用する上での問題点についての理解を図った。

体力・運動能力の向上については、運動能力証交付率は目標を上回る成果をあげることができたが、体力・運動能力調査では、握力の数値をはじめ県平均を大きく下回ってしまった項目がみられた。

・教職員研修推進事業

夏季教職員研修会を 12 講座、ＰＣ研修会を２講座開催。今年度も、自身の課題に基づく希望参加を継続した。教職員一人平均１回以上参加の意識も高まり、延べ 320 人以上の自主的な参加があった。また、市教職員全体研修会では、小学校で平成 30 年度、中学校で平成 31 年度から実施される「特別の教科　道徳」について、千葉大学教育学部教員養成センター所長の土田雄一氏より、道徳の教科化に向けて、目標の変更点や内容項目の追加、評価方法等についての講演をいただいた。

階層別研修としては、新規採用教職員研修、指導補助教員等研修、２年目教員研修、生徒指導担当者研修、特別支援教育コーディネーター研修、管理運営研修（教頭・教務主任

対象）等を実施した。また、若年層教員の育成に尽力してもらうため、昨年度に引き続き、中堅層職員研修を実施し、千葉県総合教育センターの職員を講師に迎え、課題解決型の研修を行った。

指導補助教員等の研修には、今年度も多くの講師が参加し、指導法を学んだり、情報交換を行ったりした。２年目研修では、授業づくり研修として、指導案検討から指導主事が参加し、授業実践を通して授業力のアップを図った。各研修における、専門的な立場からの示唆や実践例の紹介等が、教職員の力量向上に役立っている。

また、指導主事・教科指導員・食育指導員等が学校からの要請を受け、延べ 106 回（昨年度 76 回）、指導案作成への助言や校内授業研修会等の講師としての役割を担ったり、小中学校児童生徒に対して食育指導を実施したりした。

・外国語指導助手配置事業

今年度も３人のＡＬＴを雇用し、全小・中学校において活用できるように配置した。派遣契約のため、各校での打合せや担任との連携が充実した。更に小学校の外国語活動には３人の英語指導員の雇用を継続し、ＡＬＴとともに学級担任の指導を補助した。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

教職員研修推進については、今後とも教育現場のニーズや今日的な課題に応じた研修の実施に努めるとともに、中堅層職員の研修については、より充実させ、若手職員育成において各学校で力が発揮できるようにする。但し、働き方改革の上から、市全体研修会をなくすなど、研修等の精選も実施していく。

学力向上推進事業では、各種学力調査の結果を丁寧に分析し、学力向上推進委員会において、課題への対応を継続する。特に、「読むこと」（読書好きの子どもを育てる）、「書くこと」（記述に強い子どもを育てる）への取組を充実させたい。そのために「書くこと」、「読むこと」について、新たな指標を定めて取り組んでいきたい。また総合戦略にあるきめ細かな教育の充実や地域の良さの実感に向け、保護者、児童・生徒へのアンケートを実施し、家庭（地域）・学校・教育委員会がより一層連携し、目標達成を目指す。

外国語教育については、平成 32 年度の小学校外国語活動の教科化を見据え、教職員研修の充実や完全実施に向けての準備を行う。

情報教育の推進としては、小学校では、昨年度導入したタブレットパソコンをより効果的に活用できるよう、中学校では学習コンテンツを授業で活用できるよう支援していく。

今後も、教育センター職員がきめ細かな学校訪問を心がけ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、特別支援教育、生徒指導、教育相談といった側面からも引き続き支援をしていく。

| 外部評価者（Ｉ）の評価　　　Ｂ |
|---|
| 意見<br>　教育総務課、学校教育課、教育センターの取り組みについては、教育行政に関する基本的方針によって、広範かつ専門的な具体の教育的行政事務が執行されていると推察します。自己評価では、到達度という見方からＢ評価となっていますが、厳しい財政状況の中、苦慮しながら事務の執行がされていると思います。総合教育会議により、教育委員会と市長の意思疎通が図られ、「富津市小・中学校再配置計画」が策定されたことは、教育行政の方向性が図られたものと思います。<br>　学校施設の整備については、現在在校している児童生徒の安心・安全な環境づくりのため急務であると考えます。「富津市小・中学校再配置計画」との整合性は勿論であり、予算も伴うところでありますが、３月に策定した「富津市学校施設整備基本計画」に基づき、計画的な施設整備を望みます。<br>　「富津市小・中学校再配置計画」に基づき、平成 32 年４月の統合にむけ、保護者説明会や地区説明会、アンケートによる意識調査、再配置だよりの発行等で理解は深まっていると思いますが、児童生徒の教育条件の改善を一番に考え計画を推進されるよう切にお願いします。<br>　学校給食管理運営事業では、「学校給食施設整備に向けた提言書」を受け、老朽化した３調理場を１箇所に統合する新共同調理場の建設に向け協議を進めていただきたい。また、できる限り地産地消の推進に努め、児童生徒に安全で安心な美味しい給食を安定的に提供し、地域の自然、食文化への関心と理解を深め、地域への愛着を育んでいただきたい。<br>　子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、教育センター職員がきめ細かな学校訪問を心がけ、特別支援教育、生徒指導、教育相談等積極的な指導、助言をお願いします。 |

| 外部評価者（Ⅱ）の評価　　　Ｂ |
|---|
| 意見<br>　事業評価を目標数値で到達度に視点を置かねばならないことは客観性を高めるには重要であるが、目標数値（割合も含めて）の設定根拠がわかりづらい。例えば、６ページに記載されている体力向上プログラムを活用した教科体育の充実（運動能力証交付率）目標値、到達点も100％を越えている。また、他に到達点より目標値が低い項目がある。<br>　人口減少傾向、財政問題等将来に向けて様々な課題があるなかで「富津市小・中学校再配置計画」、「富津市学校施設整備基本計画」を策定し実施に着手するに至ったことは市の歴史の中では大きな変革であります。遅すぎるという声もあるが、市民の意向等は丁寧に対応した教育委員会事務局（学校再配置推進室）の職務には一定の評価に値するものと考えます。今後のスムースな実施に期待します。<br>　教育かわら版はホームページ等のインターネット時代とはいえ、まだまだ紙対応でなければならない市民は多いです。教育委員会の取り組みの一端やタイムリーな情報提供、発信は当面 |

必要と思います。

　通学路の安全確保に向けた取り組みは、様々な改善や協力がみられ成果が上げられています。児童生徒の減少や統合による通学方法等の変更があると思いますが、通学路は市民、地域住民の生活道路でもあります。交通事故防止さらには自然災害等からの安全対策も今後続けてほしいです。

## ２．生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、文化財の保護と活用

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

| 指　標　名 | 平成２７年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
|---|---|---|---|
| 人材バンク「まちの先生」の利用件数 | ４５件 | ９０件 | ５６件 |
| 図書利用冊数 | ２５，２６０冊 | ２６，０００冊 | ２８，３８２冊 |
| 青少年相談員連絡協議会事業の参加者数 | ９４３人 | １，０００人 | ８２０人 |
| 子ども会育成連絡協議会事業の参加者数 | ２６３人 | ３００人 | ２１１人 |
| 指定・登録文化財の件数 | ８５件 | ８７件 | ８５件 |
| 史跡見学会・講演会参加者数 | ７５４人 | ８５０人 | ６８２人 |
| 市民文化祭参観者数 | １７，４６９人 | １８，０００人 | １８，２７４人 |
| 公民館・市民会館利用者数 | １００，０４９人 | １１０，０００人 | １０２，１０６人 |
| 埋立記念館入館者数 | １，４４５人 | ２，０００人 | １，６３７人 |

| （4）生涯学習課の取り組み | 教育委員会の自己評価　　　　B |
|---|---|

①　主な事業と決算見込額

・社会教育委員関係費（474,200 円）
・生涯学習推進事業（68,256 円）
・生涯学習バス設置事業（4,365,603 円）
・図書館費（含：移動図書館事業）（4,797,391 円）
・子ども会活動事業（333,000 円）
・青少年相談員活動事業（814,400 円）
・市内遺跡発掘調査事業（2,149,289 円）
・民間開発発掘調査事業（720,511 円）
・史跡案内板・説明板設置事業（72,900 円）
・高宕山のサル被害防止事業（2,460,000 円）　等

②　２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・生涯学習推進事業

事業としては生涯学習情報提供誌の発行のみとなったが、まちの先生や出前講座などの学習支援の活用を引き続き促しながら、生涯学習の推進を図りたい。

・生涯学習バス設置事業

前年度中に、老朽化した２台を処分し、１台更新して、生涯学習バス１台体制となった。管理・運行業務委託契約の更新にあたり、運行形態や利用方法の検討をし、２台体制時より多い稼働を可能にした。前年度比で運行回数は減少した（229 回→204 回）が、定員が増えたこともあり、利用者数は増加した（5,865 人→6,049 人）。

・図書館費・移動図書館事業

年間利用冊数は 21 年度（34,359 冊）をピークに減少傾向にあったが、28 年度はじめて微増に転じた（前年度比+38 冊）のに続き、今年度は目標値を超える 28,382 冊（+3,084 冊）となった。職場体験者や市民ボランティアの協力を得て、公民館・市民会館の図書室や収蔵庫の整理を実施し、環境が大きく改善され利用者が増えた（8,237 人→9,900 人、+1,663 人）。

当市としては初めての図書の除籍（4,418 冊）を実施。「図書リサイクル会」（中央公民館 3/24･25）には 225 人が訪れ、1,387 冊が市民の手に渡り、残る 1,570kg を古紙として処分した。

・子ども会活動事業

各種の子ども会行事をはじめ、ジュニアリーダー研修会・育成者講習会が実施され、子ども会活動及び組織の充実が図られた。

・青少年相談員活動事業

青少年のつどい大会、文化祭の協力（なんでもヤリーナ 20 分・模擬店）、新年子ども大会、キャンプ大会等が実施され、青少年健全育成活動が推進された。

・市内遺跡発掘調査事業

松原古墳、飯野陣屋二の丸跡、北笹塚遺跡７の計３か所の発掘調査を実施するとともに、

平成28年度に調査した計３遺跡の整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。

・民間開発発掘調査事業

宗教法人成田山木更津協会墓地造成事業に先立ち、前三舟台遺跡の確認調査を実施した。

・その他文化財関係事業

文化財周知板設置事業では松平勝隆の墓（旧勝隆寺）、織本花嬌の墓（大乗寺）への老朽化に伴う付け替えを行った。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の改修、発信器の装着、事業対象である高宕山周辺、特に指定地域及び要現状変更地域内に生息するニホンザル個体群を対象に行動域の調査、指定地域の生息環境調査を行った。

内裏塚古墳群など市内の史跡見学会や出前講座・講演会などへの参加者は682人（前年度比-73人）であった。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

生涯学習推進事業については、情報提供誌の発行や「まちの先生」事業を中心として継続する。生涯学習推進大会が26年度を最後に休止となったが、君津地方４市での推進大会への積極的な参加を促す一方、社会教育委員会議で諸計画の検討・立案をすすめながら、公民館配置の社会教育指導員や、「子育ての話何でも聴きます窓口」対応に伴い本庁勤務となった家庭教育指導員の協力のもと、地域・家庭・学校がゆるやかに連携した「活動の場所」や「居場所づくり」を模索したい。

図書の管理については今後、本格的な図書貸出システムの導入を検討し、利用者が家庭からもリクエストや蔵書検索ができるようなサービスを目指す。また、ひきつづき図書室の環境整備に努め、快適な読書のための空間づくりに取り組む。

各種開発から埋蔵文化財を守り、場合によっては発掘調査による記録保存の策を講じるなど保存に努める。

市内の文化財周知板の整備を進め、老朽化に伴う更新のほか、指定物件以外でも重要性の高いものについては、民間からの協力も得て説明板の設置に努める。

史跡等公有地化整備事業として、引き続き内裏塚古墳単体の公有地化を進めるとともに、内裏塚古墳群全体としての整備構想を検討する。

その他文化財関係事業として、市の歴史や文化財に関して市のホームページの充実を図るなど広報活動に努める。また、高宕山のサル被害防止事業では、発信機の装着個体を増やし、指定地周辺の群数や頭数を明らかにし、管理計画の策定に向けて君津市と共同で検討していくとともに、外来種であるアカゲザルとの交雑問題についても取り組んでいく。

| （５）公民館等の取り組み<br>ア 中央公民館 | 教育委員会の自己評価　　　　Ｂ |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

・中央公民館管理運営事業（14,181,153円）
・中央公民館学級・講座関係活動事業（595,884円）
・市民文化祭事業（766,881円）　等

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・市民文化祭事業

富津市民文化祭実行委員会の企画・運営により市民自ら積極的に運営し実施した。生涯学習活動の成果を発表し、親睦と融和を図り、豊かな文化の向上と創造の心を養う文化祭となるよう努めた。

11 月２日から 11 月５日まで総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・市民会館の４会場で実施し、1,680 人（前年度比-258 人）の出展者で 2,880 点（前年度比+4 点）の作品、出演者 1,602 人（前年度比-120 人）、参観者延人数は、18,274 人（前年度比+160 人）であった。文化祭は、日頃の活動成果の発表や披露、さまざまな芸術作品の鑑賞などができる貴重な場となっているものの、生涯学習を活動する主たる年代の高齢化が進んでおり、参加者が限られてくる傾向にある。

・学級・講座事業

対象別（青少年・婦人・成人・高齢者等）や課題別（歴史文化・工芸・健康等）の15の（前年度比+1）の学級・講座を開設した。本年度は、新規講座として「ＩＣＴ教室」を実施した。市民に幅広く学ぶ機会を提供することにより、人づくりや地域づくりを推進した。

学級・講座全体の開催回数は、129回（前年度比-2回)、参加延人数は1,900人（前年度比+123人）であった。

・施設整備

主に２階第二会議室照明機器交換工事及び駐車場外灯設備修理などを実施し、施設の管理運営に支障をきたすことのないように努めた。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

市民文化祭事業は、事業実施後に実行委員会が反省会を行っている。この内容を次年度に生かし、より充実した市民文化祭となるよう取り組んでいく。

学級・講座事業は、市民の生活課題や地域社会の共通課題を把握するとともに、多様化している市民のニーズに対応した学級・講座を開設し、学校や地域の各種団体等と連携するなど、誰もが参加しやすい環境づくりを図る。

中央公民館は、築後 45 年が経過し、老朽化に伴い改修の必要な箇所が増加してきている状況である。財政状況を踏まえつつ計画的な施設整備に努めたい。

学級・講座開催状況　平成３０年３月３１日現在

| No. | 講座の名称 | 開催回数 | 参加延人員 | 講座の主旨と内容 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | シルバー生きがい学級 | 8 | 154 | 高齢者がいきいきと生活できるように、健康についての講義、軽スポーツ・レクリエーションや実習、社会見学等を交えながら学習していく。 |
| 2 | さわやか女性セミナー | 10 | 311 | 暮らしに役立つ課題や社会情勢などについて、見学、講義、実践を行いながら学習する。 |
| 3 | 折り紙教室 | 9 | 133 | 伝承折り紙から創作折り紙まで、アートとしても楽しめる折り紙の作品づくりを学ぶ。 |
| 4 | はつらつウォーキング教室 | 8 | 111 | ウォーキングのコツ、注意点及び効果などを学び、正しく美しく快適に歩くことにより、心身の健康増進をはかる。 |
| 5 | 富津フォトハイスクール | 8 | 72 | 一眼レフカメラで実際に風景などを撮りながら撮影技術を学びます。（初心者の方にも丁寧に指導します） |
| 6 | 外国人のための日本語講座 | 23 | 188 | 在日外国人が日本で生活するうえで言葉の壁を少しでも減らし、地域の人とのコミュニケーションがとれるようにする。 |
| 7 | 大人のためのわらべ歌教室 | 2 | 36 | 昔から歌い継がれてきたわらべ歌について理解を深め、その楽しさを子ども達に伝えていくための、取り組みを支援する。 |
| 8 | いきいき健康体操教室 | 9 | 186 | 自分の体の状態と弱点を知り、身の周りにある用具を使って、弱点を克服する体操を学んだり、グラウンドゴルフ・レクゲームを行ったりして心身の健康増進を図る。 |
| 9 | こども折り紙教室 | 4 | 123 | 親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた日本の伝統工芸折り紙を楽しむ。 |
| 10 | 男の悠遊教室 | 10 | 99 | 男性を対象に日常的に習慣化出来る体操の習得、料理・園芸などの体験、健康等をテーマにした講演を取り入れ、心身の健康増進を図る。 |
| 11 | プリザーブドフラワー教室 | 9 | 87 | 生花に特殊加工を施し、生花の風合い、みずみずしさ、ソフトな感触を長時間保つ事が出来る花であるプリザーブドフラワーは人気が高まっており、初心者の方でも気軽に楽しみながらさまざまなアレンジメントを学ぶ。 |
| 12 | キッズダンス教室 | 12 | 210 | リズムに乗って体を動かし、ダンスの基礎、表現する楽しさを学ぶ。また、ダンスを通じての仲間作りと異年齢の交流を図る。 |
| 13 | レジン教室 | 3 | 27 | 一般的なキルトだけではなく、キルトで作る小物入れなど、生活に取り入れやすい作品を作ります。 |
| 14 | キルト教室 | 9 | 95 | 生活の中で不要となった布を「より華やかに、品良く、用・即・美」をコンセプトに創作して、リサイクルの推進を図る。 |
| 15 | ＩＣＴ教室 | 5 | 68 | 昨今の急速なICTの発展によって、生活が大きく変化をしている中で、AIやロボットなどのICTがこれからの社会や生活にどのような影響を与えるのかを考える。 |
|  | 合　計 | 129 | 1,900 |  |

| イ　富津公民館・埋立記念館 | 教育委員会の自己評価　　　　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

・富津公民館管理運営事業（88,976,182円）
・成人式事業（642,682円）
・富津公民館学級・講座関係活動事業（536,212円）
・埋立記念館管理運営費（2,197,130円）　等

②　２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・成人式事業

新成人を祝って、平成30年1月7日に開催し、新成人代表の実行委員会企画運営による式典を行った。中学３年生時に本人が書いた「二十歳への手紙」を式典の中で披露し、後日、当日の集合写真と共に郵送した。式典不参加者にも手紙を郵送した。

今年の新成人該当者は484人で、内360人が式典に出席し、出席率は74.4%であった。

・学級・講座事業

対象別（親子・成人・高齢者等）や、課題別（歴史文化・手工芸・園芸・健康等）の15学級・講座（前年度比+1）を開設した。今年度は、新たに「はじめての紙バンド教室」を行い、全開催回数は131回（前年度比-6）、学級・講座全体の参加延べ人数は2,266人（前年度比+135人）であった。

・施設整備

富津公民館では、ホワイエタイル斫り撤去工事及び床タイル修繕を行い、冷暖房設備の吸収式冷温水発生機交換工事を実施し管理運営に支障をきたすことのないように努めた。

③　今後の取り組みの方向性（改善策等）

平成30年富津市成人式では、新成人代表による実行委員会が「自らが作る成人式」として式典の企画運営を担い実施した。今後の成人式も実行委員会での実施を継続していく。

富津公民館は、築後34年が経過し、老朽化による設備故障等の発生頻度が年々高まる傾向にあるが、館の運営や事業に支障をきたすことのないよう、平成29年度は冷暖房設備の吸収式冷温水発生機交換工事を実施し、平成31年度に空調機改修工事を実施する。

埋立記念館は、平成27年度から、入館料の無料化と平日の無人化を実施することとなったが、今後も入館者数の増加に向け、広報等に努める。

学級・講座事業については、今後も事業内容や学習手法等を十分検討し、利用者や各種団体等と連携して、誰もがより参加しやすい環境づくりを進め、市民の学習意欲の向上と地域文化の発展に努める。

学級・講座開催状況　平成３０年３月３１日現在

| | 講座の名称 | 開催回数 | 参加延人員 | 講 座 の 主 旨 と 内 容 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高齢者教室 | 9 | 273 | 年齢を重ねても健康で充実した生活を送るため、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。 |
| 2 | 園芸教室 | 10 | 287 | 花や樹木の手入れ、管理方法から、草花の種からの育て方、鉢の寄せ植え、樹木の移植、用土作り、害虫の駆除などの園芸技術を学習する。 |
| 3 | 男の料理教室 | 7 | 112 | 手軽に作れる日常の惣菜など、初歩的な調理技術と酒の肴など、男性ならではの実践的な料理づくりを学ぶ。 |
| 4 | 東京湾学講座 | 16 | 508 | 富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化、自然などについて、幅広い知識を学び、また、探査会を実施し学習していく。 |
| 5 | 健康スクール教室 | 8 | 116 | 自分でできる運動を中心に、日常的に体を動かす楽しさを学ぶ。 |
| 6 | わらべ歌遊びと共育ち教室 | 8 | 153 | 子育ての中に、わらべ歌遊びを豊かに取り入れ、親子のふれあいを深める。 |
| 7 | 韓国語教室 | 8 | 72 | 日本の隣国である韓国の言語と日常会話を学び、韓国の伝統文化についても、併せて学習する。 |
| 8 | はじめての紙バンド手芸教室 | 8 | 96 | 古紙から再生される環境に優しい紙バンドを使い、趣味のバッグや小物等の実用品からアートまで幅広い作品を作る。 |
| 9 | 大人チャレンジ教室 | 1 | 17 | 日常生活の中では、なかなか体験できない伝統文化・技術などにチャレンジする。 |
| 10 | エコパッチワーク教室 | 8 | 145 | エコ、リメイクの意識を高めるため、古着の布と新しい布を組み合わせて使用し、パッチワークを学ぶ。 |
| 11 | 陶芸教室 | 9 | 93 | お皿や小鉢など、世界にひとつだけの「わたしの器」作りを楽しむ。 |
| 12 | 古文書を読む会 | 10 | 177 | 市内に伝わる古文書から、歴史について学ぶ。 |
| 13 | ウオーキング教室 | 7 | 82 | 負担のないウオーキングの方法を学び, 肥満や運動不足からくる生活習慣病の予防、ストレスの解消を図る。 |
| 14 | 折り紙教室 | 8 | 107 | 指先を使うことにより脳の活性化を図るとともに、多様な紙を用いて、季節の飾りや折り紙の作品を行う。 |
| 15 | FIRA 英会話サークル | 14 | 28 | 国際交流の表現手段としての英会話を「ＮＨＫラジオ英会話」を教材として学ぶ。(国際交流協会主催) |
| | 合　　計 | 131 | 2,266 | |

| ウ 市民会館・峰上地区公民館 | 教育委員会の自己評価　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

- 市民会館管理運営事業（29,021,730円）
- 市民会館学級・講座関係活動事業（457,113円）
- 市民会館文化事業（1,000,000円）
- 峰上地区公民館管理運営事業（1,180,009円）　等

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・学級・講座事業

対象別（青少年・成人・高齢者等）や課題別（教養・歴史文化・健康等）に20の主催学級・講座等を開設し、市民に幅広く学ぶ機会を提供し、講座を通じての人づくりや地域づくりに寄与した。今年度は、新たに「初めてのソープカービング」・「ポールウォーキング」を行い、開催回数140回（前年度比+16回）、参加延べ人数2,660人（前年度比+546人）。

・施設整備

市民会館では、浄化槽水中ポンプ交換修繕・舞台照明設備の修繕や畳表替え修繕を実施した。また、峰上地区公民館では、講堂照明や玄関外灯用タイマースイッチの修繕を行い管理運営に支障をきたすことのないように努めた。

旧市民会館第二庁舎は、本年度に解体設計業務をした。来年解体工事を実施し、跡地利用については市民会館の駐車場が不足しているため、駐車場として有効利用する。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

主催事業である学級・講座が、常にフレッシュな内容であるよう努め、参加者や各種団体等と連携して、新しい年代層や受講者の増加に努める。

また、自立が見込める教室・講座は、サークルとして活動を広げていけるよう促すとともに、地域の人材を活用した新たな教室・講座の開設に努め、人づくりや地域作りの拠点として事業を展開していきたい。

市民会館は、築後 28 年が経過し、老朽化が進んでいる。市民が快適かつ安全、安心、便利に利用できるよう、財政状況を踏まえつつ、計画的な施設整備に努めたい。

峰上地区公民館については、築後 54 年経過している上、木造であるため施設整備等に対する保守点検を徹底し、安全性の確保及び管理運営に支障をきたすことのないよう努めたい。

学級・講座開催状況　　　　　　　　　　　　　　平成３０年３月３１日現在

| No. | 講座の名称 | 開催回数 | 参加延人員 | 講座の主旨と内容 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 歴史探訪講座 | 8 | 209 | 地域の歴史を文化・自然・人物・史跡などから再発見、学習する。 |
| 2 | Futtsu One World Club | 10 | 317 | 国際化する社会の中で、料理や伝統文化を通して外国の文化について学ぶ。 |
| 3 | こどもダンス教室 | 13 | 136 | リズム感を養いながら音楽に合わせて体を動かし、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。 |
| 4 | ディスカバーふっつ | 4 | 41 | 「ふっつ」の良さ、すごさを再発見するための体験講座。40数kmに及ぶ海岸線を３回に分けて走破する。 |
| 5 | エコ・スクール | 7 | 128 | 自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学ぶ。 |
| 6 | シルバー生きがい学級 | 9 | 219 | 高齢化が進む中、レクリエーションや学習をとおし参加者がふれあえる場を作り、仲間づくりをする。 |
| 7 | 読み聞かせボランティア入門講座 | 5 | 6 | 絵本の読み聞かせボランティアを通して、読み聞かせの楽しみやボランティアの喜びを知る。 |
| 8 | マネーライフ講座 | 2 | 19 | 難解な経済、金融の仕組みや用語の解説を受けながら、お金の流れや生活設計の仕方など新時代のマネーライフについて学ぶ。 |
| 9 | 和菓子教室 | 7 | 143 | 日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学ぶ。 |
| 10 | 季節の草木染め講座 | 5 | 64 | 四季の中で育った草木を使い、染め物の染料とすることを考えた先人の知恵「草木染め」を学ぶ。 |
| 11 | シニアのためのスマホ・タブレット講座 | 2 | 28 | スマートフォンやタブレットを気軽に利用できるようにし、生活における利便性を拡大する。（シニア向け） |
| 12 | 健康料理教室 | 5 | 82 | 季節の食材を使い、主菜・副菜・デザートなどの料理を学ぶ。 |
| 13 | コーヒー講座 | 4 | 36 | 体に良いコーヒーの入れ方や、お菓子に合うコーヒーの選び方等、日常に使えるコーヒーの講座。 |
| 14 | 小筆教室 | 3 | 35 | 住所や名前など、生活に役立つ自分が習いたい文字を習う。 |
| 15 | 名画座 | 12 | 629 | ホールにて視聴覚教材を用いた映写会を開催し、市民が手軽に名画を鑑賞するとともにホールの活用を図る。 |
| 16 | お話し会 | 19 | 306 | 幼児を対象としたお話し会を開催し、親子がふれあうとともに同世代の親子が知り合う場の提供、図書室の利用促進を図る。 |
| 17 | 初めてのソープカービング | 6 | 66 | タイ王宮の伝統工芸であるソープカービングを基礎から学ぶ。 |
| 18 | ポールウォーキング | 5 | 87 | 足腰の弱い方でもポールを使い手軽にウォーキングやストレッチをしながら全身運動をする。 |
| 19 | 名画座ボランティア会議 | 2 | 10 | 名画座を運営するボランティアによる会議。 |
| 20 | お話し会ボランティア会議 | 12 | 99 | お話し会を運営するボランティアによる会議。 |
| | 合　　計 | 140 | 2,660 | |

| 外部評価者（Ⅰ）の評価　　　　B |
|---|
| 意見<br>　生涯学習においても厳しい財政状況の中、事業の廃止（休止）や縮小が求められ、職員の一層の創意工夫が必要不可欠となっています。そのような状況下において、事業の内容、参加者数、利用者数を見ると一定の評価ができるものと思います。今後も、市民のニーズに対応した事業内容や手法を創意工夫し、施策展開がされるよう期待します。<br>　また、公民館等の老朽化に伴い改修する箇所が増加していると思われますが、整備計画を立て安全・安心な環境づくりをお願いします。<br>　図書の年間利用冊数が、職場体験者や市民ボランティアの協力で目標値を超えることができたのは評価できると思います。引続き創意工夫して図書室の環境整備に努め、快適な図書の空間づくりに努めてください。<br>　青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。携帯電話やスマートフォン、インターネットでの青少年が巻き込まれるトラブルが続発し、また、いじめや不審者の問題も今日課題となっています。このため、一層の家庭、学校、地域が一体となり、健全な育成環境が整備されるよう願います。 |

| 外部評価者（Ⅱ）の評価　　　　B |
|---|
| 意見<br>　人口減少の傾向と構成の変化を考慮すると、多くの施策事業の利用者数、参加者数を増加させることは容易でない。現状維持に職員だけでなく多くの市民が努力されていることだと推測します。今後はさらに、目標値の設定根拠の再考を「数」より「質」の向上を求めていくなかで必要ではないか。<br>　図書館事業においては、様々な改善や市民ボランティアの協力などにより利用冊数の増加につながったことは高く評価したい。本市の地理的広域性や人口の分布、交通手段の利便性等を勘案すると移動図書館、公民館、市民会館の図書室の有効性はさらに高まることが期待されます。これらの成果を自信をもってアピールしていくことを期待します。<br>　人口減、少子化の中での子ども会活動事業や青少年相談事業について、推進役員の方々のご苦労を察します。各地域の今後の想定のなかで従来の組織の統廃合を含めた大きな見直し等も必要かと思います。同様の問題地域の対応等を参考にしたい。<br>　高宕山のサル被害については、富津市に自然豊かな居住地を求めて来る方々にとっては、イノシシ被害とともにマイナスイメージとなっていると聞きます。天然記念物ということで教育委員会の管轄だけでなく県や市としての対応をさらに期待したい。 |

## ３．スポーツ・レクリエーションの振興

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

| 指　標　名 | 平成２７年度 | 平成３２年度<br>（目標値） | 平成２９年度<br>（到達点） |
|---|---|---|---|
| スポーツ関連の行事参加者数 | １５，６０３人 | １６，０００人 | １６，００４人 |
| 総合型地域スポーツクラブの数 | １か所<br><平成２２年度> | ２か所 | １か所 |

ふれあいスポーツフェスタ 2017

| （6） 生涯学習課の取り組み<br>スポーツ振興係 | 教育委員会の自己評価　　　B |
|---|---|

① 主な事業と決算見込額

- 社会体育振興事業（3,456,045 円）
- ふれあいスポーツフェスタ事業（760,451 円）
- 市体育施設管理運営事業（32,509,184 円）
- スポーツレクリエーション推進事業（242,217 円）

② ２９年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）

・社会体育振興事業

市民がスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりをする中で、豊かな生活が営まれるように各種スポーツイベント等を実施。また、スポーツ推進委員及びスポーツ・レクリエーション推進員と連携して、誰でも気軽に参加できるニュースポーツの普及に努めた。

富津市長杯争奪少年野球大会　87 人（前年度比：-15 人）
富津市教育長杯争奪少年サッカー大会　120 人（-30 人）
第 35 回ＦＴＳ少年剣道大会　395 人（+44 人）
「県民の日」記念第 34 回グラウンドゴルフ大会　93 人（-5 人）
「県民の日」記念第 34 回バドミントン大会　270 人（-2 人）
第 24 回ＦＴＳ杯争奪少年柔道大会　121 人（-19 人）
第 35 回ＦＴＳ杯争奪少年野球大会　96 人（-16 人）
第 23 回健康ウォークラリー大会　54 人（+3 人）
君津地区ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭歩け歩け大会　358 人（+128 人）
第 36 回ＦＴＳ杯争奪インディアカ大会　16 人（-5 人）
第 26 回ＦＴＳ杯争奪ソフトバレーボール大会　40 人（+5 人）
第 22 回ＦＴＳ杯争奪グラウンドゴルフ大会　56 人（-20 人）
君津地区ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭（ｲﾝﾃﾞｨｱｶ・ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ）　64 人（+1 人）
富津市教育長杯争奪少年野球新人大会　87 人（+5 人）
第６回ふれあいドッヂビー大会　参加者少数のため中止（H28　113 人）
第 42 回ママさんバレーボール大会　98 人（-16 人）
第 35 回市民ハイキング　雨天中止（H28　60 人）
第 48 回元旦歩こう大会　350 人（+2 人）
第 47 回新春バドミントン大会　273 人（+28 人）
第 30 回新春グラウンドゴルフ大会　74 人（-33 人）
スポーツ教室（毎週土曜日）　5,075 人（+329 人）
第８回富津市バスケットボールフェス　1,901 人（-97 人）
ニュースポーツ教室　参加者少数のため中止（H28　20 人）

・ふれあいスポーツフェスタ事業

市民の手づくりによる健康づくり、体力づくりを目的に多くの市民がスポーツに親しめるよう、体力測定やロコモ対策健康体操を実施。その他、スナッグゴルフやポールウォーキングの普及やなぎなたのＰＲを実施。また、健康づくり課等も参加し骨密度・体脂肪測

定も行うなど、健康を意識した大会とした。　2,289人（-85人）

・市体育施設管理運営事業

公益財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として管理運営を実施し、市民サービスの向上を図った。

総合社会体育館　主体育館　619件　57,107人（-19件　-2,412人）

小体育館　941件　8,922人（+55件　-117人）

会議室等　59件　843人（-13件　-239人）

富津運動広場　83件　1,633人（+6件　+58人）

新富運動広場　99件　12,449人（-30件　-6,377人）

浅間山運動公園　テニス等　956件　5,518人　（-9件　+295人）

野球　101件　4,079人（-6件　-42人）

・小中学校体育施設開放事業

81団体　8,821日　173,281人（延数）（+1団体　+756日　+13,118人）

・第40回千葉県民マラソン大会

市民等の心身の健全な発達とスポーツ振興、富津市の名産品などの紹介や販売を行うことによる観光振興に寄与することを目的として、千葉日報社と協力して千葉県民マラソン大会を実施。地元住民による沿道応援や市内からのボランティア参加。また、会場での各種イベントなども合わせて行うことで大会の活性化が図られた。

エントリー　4,087人（+202人）　完走数　3,422人（+144人）

③　今後の取り組みの方向性（改善策等）

・社会体育振興事業

スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、各種スポーツイベント等の参加者の増加が図れるよう検討する。また、身近な地域で生涯にわたってスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブの充実を図る。

・ふれあいスポーツフェスタ事業

実行委員会を早期に開催し、関係団体との協議、準備を進め内容の検討を図っていく。

・市体育施設管理運営事業

施設の老朽化に伴い各施設ともに大規模な改修等が必要となっていることから、計画的に補修を進めていく必要がある。

・千葉県民マラソン大会

大会終了後に行われている運営委員会での反省点、参加者からの意見を活かし、当初の目標であるスポーツ振興・観光振興をより充実させた大会を目指し準備・開催をする。

| 外部評価者（Ⅰ）の評価　　　　　B |
| --- |
| 　スポーツ・レクリエーションの振興についても、厳しい財政状況の中、事業の廃止や縮小が求められ、創意工夫が必要不可欠となっています。経験豊富なスポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員との連携を図り、各種スポーツイベントの参加者の増加につながるよう創意工夫を期待します。<br>　体育施設の管理運営については、施設の老朽化に伴い大規模な改修等が必要と思われますが指定管理者と緊密な連携を図り、利用者の安心・安全を第一に考え計画的に修繕、改修を進めていく必要があります。 |

| 外部評価者（Ⅱ）の評価　　　　　B |
| --- |
| 　社会体育振興事業として各種スポーツイベント、競技大会ではそれぞれの参加者数が前年度比マイナスであります。これは、他の事業評価でも指摘がありましたが、人口減少傾向、少子高齢化の現実の中では予想されることであります。そのような実情のなか職員はもちろんですがスポーツ推進委員及びスポーツ・レクリエーション推進員の活躍には敬意を表します。参加者が増加しているイベント（スポーツ教室、歩け歩け大会、県民マラソン等）の背景を分析、今後の振興事業のあり方の参考にしていただきたい。<br>　「総合型地域スポーツクラブ」の活動は“身近な地域”“生涯にわたって”という高齢化社会における課題に対応できる事業であります。「佐賀クラブ」の活動には運営に携わっている人たちの思いと実務に敬意を表します。その内容、方法を行政もさらにバックアップし２箇所という目標値を達成することを期待します。 |